

1 審議会等の名称	令和８年度第２回三重県観光審議会
2 開催年月日	令和８年８月２４日（月）
3 委員	【会長】埼玉大学 教授 石阪督規 他８名出席 計９名
4 諮問事項	次期三重県観光振興基本計画の素案に係る審議等
5 審議概要	委員からの主なご意見は以下のとおり。 <目標項目> ・ＫＧＩ（重要目標達成指標）、ＫＰＩ（重要業績評価指標）の各種目標値の数値が細かすぎると目標が伝わりづらくなるのではないか。また、目標達成の意味を明確にする必要がある。 ・ＫＧＩ、ＫＰＩの目標値は、これまでの実績の最高値を目標にするのではなく、少しでも上回る目標にした方がよいのではないか。 <施策の柱１ 質が高く、持続可能な観光地づくり> ・食については、三重県は全国的なグルメ市場での認知度が低いことから、魚介や食材のブランド化をさらに進め、来訪動機となり得るよう強力に発信すべきである。 ・広域連携は、別の地域を組み合わせることで今までになかった旅をつくることであり、そうすることにより、地域間で旅行者を取り合うのではなく、県全体で滞在を増やすことができる。 ・目標達成のためには取組体制の強化が必要であり、先駆的 DM0 のレベルに達している等の組織面の目標を共有し、そのための具体的な取組を実施することで、外部から三重県全体の観光推進体制が評価され、取組の前進につながる。 ・オーバーツーリズム対策については定義が定まっていないため、三重県としての考え方を整理し、まずは過集中が生じている曜日・時期等を調査する必要がある。 ・三重県の閑散期である冬ならではの滞在価値の提案が必要である。 ・閑散期対策については、客室稼働率だけでなく、入込数や時間帯等も含めたきめ細かな分析が必要である。 ・三重県は地震や津波のリスクを抱えており、インフラだけでなくネットワークや情報発信を含め、災害時に安心できる観光地

	としての備えも検討すべきである。 ＜施策の柱２ 戦略的な観光誘客の推進＞ ・式年遷宮は、令和 15 年を待つのではなく、準備過程や宇治橋架け替え等も含めて今から発信し、その価値を伝えるべき。式年遷宮の意味や背景まで伝えることで、神宮周辺だけでなく、県内各地への波及を意識して発信すべきである。 ＜施策の柱３ 魅力的な観光産業の確立＞ ・観光関連産業従事者の平均年収が県内平均より 100 万円低い点は重い課題である。待遇改善が進めば、他地域にも誇れる取組となり、来訪者にも伝わるはずである。
--	--